

研究課題名	経頭蓋電気刺激時の気道損傷に対するマウスピースの保護効果の検討
研究期間	2017年12月6日～2026年12月31日
研究の対象	2007年1月1日から2023年12月31日までの16年間において広島大学病院整形外科および脳神経外科で行われた、脳および脊椎手術症例患者さんのうち、術中に脊髄機能モニタリングを行った患者さん。
研究の目的・方法	研究目的：脊髄などの手術を行う際には、神経を傷つけないようにするため脳に電気刺激を与え神経の状態を観察しながら手術が行われます。しかし、脳の電気刺激は顎の筋肉（咬筋）を収縮させるため、舌を噛む、歯が折れる、人工呼吸用のチューブを噛む、などの危険な状況が生じる場合があります。そこで、今回、患者さんの舌・歯・人工呼吸チューブを保護するために開発したマウスピースの使用成績を調査することで、患者さんの合併症が軽減するかどうかを明らかにするため、この研究を計画しました。 研究の方法：本研究は、すべて診療録（カルテ）情報を転記して行います。
研究に用いる試料・情報の種類	カルテから転記する内容は以下のものです 1) 基本データ（病名、年齢、性別、身長、体重、マウスピース使用の有無） 2) 手術記録（術式名、神経モニタリング記録） 3) 麻酔記録（麻酔法、使用器具、バイタルサインなどの生体情報） 4) レントゲン写真などの画像データ （個人が特定できる情報は転記しません）
外部への試料・情報の提供	本学単独で実施する研究のため外部への情報提供は行いません。
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日(2017年12月6日以降) 随時
個人情報の保護	試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものかわからないようにします。個人と連結させるための対応表は、本院の研究責任者が保管・管理します。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科麻酔蘇生学 教授 堤 保夫
その他	研究に変更が生じた場合も、現在御覧いただいている HP にて変更した情報を公開します
研究への利用を辞退する場合の連絡先・	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんの

お問合せ先	<p>で下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p> <p>広島大学病院 麻酔科 教授 堤 保夫（研究責任者） 准教授 佐伯 昇（担当者） TEL：082-257-5267（内線 5267）</p>
-------	---